

島のひろば

第699号

「島のひろば」編集委員会電話 04992-2-8256

くらしの相談は共産党町議団へ

小池2-9318 山田2-3670
酒井090-4545-0032

春頌



2026年1月

心合わせて希望の年に

新しい年の始まり、みなさんお元気で迎えられたことと思います。

今、国政も都政も、私たち庶民が願う「平和でしあわせな日常生活を」とは真逆の方向に進んでいるようですが、みなさんいかが思われますか。

高市自民・維新政権の危険な暴走が日本経済を痛めつけ、国民の安心や生活の安定まで脅かしています。物価高が続く中、賃金は上がらず、生活は苦しくなるばかりです。この政権は、軍事予算を11兆円規模にし、大軍拡をさらに加速させるアクセルを踏み込みました。高市首相は「防衛費の増額に引き続き取り組んでいく」とトランプ米大統領に約束してしまいました。目標は20兆円超えで、これは医療・介護・生活保護予算18兆円を上回ります。高市軍拡は、暮らしの予算を圧迫し、周辺諸国との緊張を高め、日本の平和を脅かすものです。

そして人口減少と高齢化が進む大島でも、島内の交通問題をはじめ、島外への船便欠航など、医療・福祉・教育：日々の暮らしも困難さを増しています。地球の温暖化が進む中での農漁業などの第一次産業への影響も深刻です。島の未来を切り拓いていくことは容易ではありませんね。

明るい光を見出すのが難しい年の始めですが、今年2026年を希望ある一年にするため、どうかみなさん、お互いに励ましあい、力を合わせてまいりましょう。

お困りごとや相談ごとなどありましたら、遠慮なく声をお寄せ下さい。私たち日本共産党は、みなさんの願いをしっかりと受け止め、痛みを町や都・国に届け、一つひとつ解決するために、議員団を先頭に全力でがんばります。

2026年が素晴らしい一年になるよう、ご一緒に歩んでいきましょう。

2026年1月

日本共産党大島町委員会・日本共産党大島町議団



12月議会一般質問

12月議会で行われ

た共産党3議員の一般質問のうち今回は酒井・小池議員の質問を紹介します。

「観光環境の改善・リニユーアルの提言」

酒井 大島への観光客数回復のため満足度の高い観光地に成長する必要がある。

いくつか気になる点があり、一つがトイレの不足とトイレの掲示の不足です。

トイレでは地層大断面にはぜひほしい。

また三原山登山道路で元町、岡田を過ぎると三原山山頂まで

公衆トイレがなく、山頂に至るまでのどこかにトイレを設置

する必要がある。トイレが設置されている場合でも場所の掲示が分かりにくいこともあり、改善のための点検が必要

と感じる。

トイレに限らず自動車や自転車でも島を回る際の利用可能な施設の掲示や注意喚起、特に自転車に関して

は所要時間や急こう配での事故への注意喚起・道路の舗装改善など観光利用への利便性の向上を目指すべきだと思う。

一方、観光資源の紹介ツールに関して、デジタルサイネージは情報の更新が滞っており、11月30日の段階で火山博物館リニユーアル工事中となっていました。

観光に係わるトイレや公共施設、道路に関して改善をお願いしたい。また観光資源の改善計画を検討して下さい。

観光課長答弁 観光課では観光客が困ったことについて聞き取り調査を実施して

おり、ニーズを把握し改善していきます。次に「デジタルサイネージのアップデート更新」についてはページの更新は保守事業者に依頼する必要がありますが、その都度アップデートを先方に送っております。

ホスピタリティの向上」を盛り込む予定です。



「観光施策について」

小池 以前から補助金等を活用し観光施策やイベント等が実施されていますが、そのほとんどが業務委託となっています。観光立島の大島町にとってで得る限り有効な施策や内容となるよう努力をしていただきたい。

先日開催された婚活イベント「島恋活」の、かかる予算と補助金等があれば、その内訳を報告願います。加えて、当初予算にも計上されていますが、今回のイベント開催にあたり業務委託している委託事業者への委託料もお聞きます。私は観光施策とし

て実施することには少し疑問は感じましたが、せっかく実施するのであれば効果的なものになればうれしい気持ちでいます。したが、参加者等から聞き及んだところ内容的には改善点も多々あったようです。この事業に限ったことではなく、私が危惧するところは、補助金ありきで観光施策に対しての考察や吟味の思考停止に陥ることや、委託事業者への税金を使った儲けどころになっではないかということとです。特に単年度事業であれば委託事業者としては、今回だけ適当に実施しておけばいいといった思考等の対応になりかねないと考えてしまいます。

額が2回分で、49,980,500円、財源は、東京都観光財団からの補助率2/3、300,000円を予定しています。「補助金ありきで考察や吟味を怠っていないか」とのご懸念については、町の一般財源の支出をどれだけ抑えられるかという観点を重要視しつつ、従事する人員の無理のない手配、費用や労力に対する経済効果、リピーター獲得等、補助金メニューの範囲内ですが十分吟味した上の実施をしております。ご理解願います。

委託事業者については熱量や力量に差はあるものの、概ね誠実に対応してもらっている認識しています。事業者には今年限りといった説明はしておらず、事業者としては次年度も継続してもらえようという取り組みがあるものと思われま。

大島文学・紀行散策

拾遺編

吉行和子一家のこと

三

558 時 得 孝 良

家にいない父親から「大島のひきずるようになって口バをうご三原山に行ってみよう」と、かすのである。道行く人々は突然誘われ、一郎を興奮させた大島旅行。一郎たちは「やーい、歩いた方がはやいぞ」と、島の少年がはやしたたりした。若い女の馬にも馬子が付き添っていたが、この方は滞りなく進んでいて、その馬とそれと並んで進んでいる一郎の前に連れてこられた。一郎の視野から見えなくなる。言うところ、それならちよと乗ってごらん」と父が笑いながら言った。馬子の手で、馬の上でいたが、そのうちあきらめに押し上げてもらって見たが、あたりの風景など眺め始め一郎の足は鎧に届かない。一た。土地はだんだん上り坂に郎の乗った口バは、鈍重で頑固で、ときどき横を向いたり、動かなくなってしまう。そうすると付き添っている馬が手綱を力いっぱい引っぱって、まるで

た。・(以下次号に続く)